

安全データシート

1. 製品名及び会社情報

製品名 プリジアクール 78
 会社名 西日本薬業株式会社
 住所 愛媛県松山市南吉田町 2 1 8 6 番地 1
 電話/FAX 089-965-3600/089-965-3601
 メールアドレス info-labo@nisiyaku.co.jp
 作成年月日 2020 年 4 月 27 日
 改定日

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分 2
	自然発火性液体	区分外
	自己発熱性化学品	分類できない
	金属腐食性化学品	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性（経口、経皮、蒸気）	区分外
	急性毒性（粉じん及びミスト）	分類できない
	皮膚腐食性及び刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 1
	呼吸器・皮膚感作性	分類できない
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 1A
	特定標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分 2(中枢神経系、全身毒性) 区分 3(気道性刺激、麻酔性)
	特定標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分 1(肝臓) 区分 2(血液系、中枢神経系)
環境に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	分類できない
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外
	オゾン層への有害性	分類できない

注) 上記以外で記載が無い危険有害性クラスは、「分類対象外」

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

引火性の高い液体及び蒸気
 重篤な眼の損傷
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 臓器(中枢神経系、全身毒性)の障害のおそれ
 呼吸器への刺激のおそれ

眠気又はめまいのおそれ
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（肝臓）の障害
 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器（血液系、中枢神経系）の障害のおそれ

注意書き

- 【安全対策】** この安全データシートをよく読み、全ての安全に関する注意事項を理解するまで取り扱わないこと。
 熱/火花/裸火/高温のもののような着火源から遠ざけること。
 禁煙
 容器を密閉しておくこと。
 容器を接地すること/アースをとること。
 防爆型の電気機器/換気装置/照明機器を使用すること。
 火花を発生させない工具を使用すること。
 静電気放電に対する予防措置を講ずること。
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
 取扱い後は手をよく洗うこと。
 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
- 【応急処置】** 直ちに医師に連絡すること。
 気分が悪い時は、医師の診断/手当を受けること。
 皮膚(または髪)に付着した場合:直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
 吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを装着していて容易に外せる場合は外すこと。 その後も洗浄を続けること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。
 ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当は受けること。
 火災の場合には適切な消化方法をとること。
- 【保管】** 施錠して保管すること。
 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。
- 【廃棄】** 内容物/容器は法に沿った処理をすること。

3. 組成・成分情報

物質の特定 混合物
 組成

含有成分	化学式	化審法番号	安衛法番号	CASNo.	重量比
エチルアルコール	CH ₃ CH ₂ OH	2-202	既存	64-17-5	73.30%
2-プロパノール	C ₃ H ₈ O	2-207	既存	67-63-0	0.50%
グリセリン	C ₃ H ₈ O ₃	2-242	既存	56-81-5	0.50%
10%安息香酸デナトニウムアルコール溶液	C ₂₈ H ₃₄ N ₂ O ₃ ·C ₂ H ₆ O				0.01%

上記組成に精製水を含む

国連分類: 3-2 (引火性液体) 国連番号: 1170

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 直ちに空気の新鮮な場所に移し、安静にする。ひどい場合は直ちに医師の手当を受ける。
- 眼に入った場合 : 豊富な清浄水で最低 15 分間眼を洗浄した後、直ちに眼科医の手当を受けること。
- 皮膚に付着した場合 : アルコールの浸潤した衣服を直ちに脱がせ、アルコールにふれた部分を水で流しながら洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 水でよく口の中を洗浄した後、コップ数杯の清水を飲ませ希釈すること。医師の指示が無い場合には無理に吐かせないこと。直ちに医師の手当を受ける。
-

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 二酸化炭素、散水、噴霧水、粉末、炭酸ガス、耐アルコール泡が有効
- 使ってはいけない消火剤 : 棒状注水
- 危険有害性 : 加熱により容器が爆発するおそれがある。
極めて燃え易く、熱、火花、火炎で容易に発火する。
消火後再び発火するおそれがある。
火災時に刺激性、腐食性、又は毒性のガスを発生する恐れある。
- 消火方法 : 初期の火災には、大量の水噴霧、又は粉末、炭酸ガス等の消火器による消火を行う。大規模の火災には耐アルコール泡、水を噴霧する。容器を冷却する。又延焼を防止するため、周辺にも水を噴霧する。危険でなければ火災区域から容器を移動する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業では適切な保護具（手袋、眼鏡、マスク等）を着用する。
-

6. 漏出時の措置

- 注意事項 : 関係者以外の立ち入りを禁止する。
高濃度の蒸気にさらされないように保護眼鏡、保護マスク等適当な保護具を着用する。
浸透性及び揮発性があるので、付近の着火源となるものは速やかに取り除く。
- 除去方法 : 少量の場合は砂又は他の不燃性吸着剤で取り除きこぼれた場所を速やかに大量の水で洗い流す。
大量の場合は漏出液を密閉式の空容器にできるだけ回収し、回収できなかった場所は、大量の水で洗い流す。
-

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用する。
- 局所排気・全体排気 「8.ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱注意事項 「10.安定性及び反応性」を参照。
 接触回避 「10.安定性及び反応性」を参照。

保 管

技術的対策 当該法規の規制に従う。
 混触危険物物質 「10.安定性及び反応性を」参照。
 安全な保管条件 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。施錠して保管すること。
 安全な容器包装材料 当該法規の規制に従う。

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策：装置の気密が重要である。照明設備は防爆型のものを使用する。
 取扱いについては、火気のない換気のよいところで行う。
 管理温度：2-プロパノール 100%として(200ppm) その他(規定なし)
 許容濃度：エタノール 100%として・ACGIH TLV-STEL 1,000ppm(2013年版)
 2-プロパノール 100%として・ACGIH TLV-STEL 400ppm(2013年)
 ACGIH TLV-TWA 200ppm(2013年)
 保護具：通常はゴム手袋、ゴム前掛、安全靴を着用する。高濃度の場所ではゴム手袋、ゴム前掛、安全靴、保護眼鏡、保護マスクを着用する。
 作業衣：帯電防止衣服を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

外 観 等：無色透明な液体で特有の臭気を持つ。
 pH : 該当せず

エタノール 100%としての情報

引 火 点：13℃ (タグ密閉式)
 融 点：-114.15℃ 沸点：78.32℃(101.325kPa)
 発火点：439℃ 蒸気圧：5,878kPa(20℃)
 爆発限界：下限 3.3vol%～上限 19.0vol%(空気中) 蒸気密度：1.59
 密 度：0.78493kg/m(25℃) 粘度(粘性率)：1.074mPa・S(25度)
 溶媒に対する溶解性：水、エーテルによく溶ける
 オクタノール／水分配係数：-0.30(logPow)

2-プロパノール 100%としての情報

引 火 点：12℃ (タグ密閉式)
 融 点：-87.9℃ 沸点：82.3℃(HSDB)
 発火点：399℃ 蒸気圧：4.4kPa(20℃)
 爆発限界：下限 2.0vol%～上限 12.0vol%(空気中) 蒸気密度：2.1
 密 度：0.78505kg/m(20℃) 粘度(粘性率)：2.038mPa・S(25度)
 溶媒に対する溶解性：水に 25℃で限りなく溶解、アルコール、エーテルに可溶
 オクタノール／水分配係数：0.05(logPow)

10. 安定性及び反応性

通常の条件においては安定である。

アルコール分 100%としての情報

安定性：通常の取扱い条件においては安定であり、危険有害な分解生成物は発生しない。

反応性：次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

硝酸、硝酸銀、硝酸水銀、過塩素酸マグネシウム等の強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。

混触危険物質：次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウム等の酸化剤

11. 有害性情報

混合物としての情報なし

アルコール分 100%としての情報

- 急性毒性
- ・経口 ラット：LD₅₀ 6.2-17.8g/kg
 - ・経皮 ウサギ：LDL₀ 20g/kg
 - ・吸入（蒸気）ラット：LC₅₀ 2,000ppm/10h 毒性未評価
 - ・吸入（ミスト）ラット：LC₅₀ 63,000ppm/4h (118mg/L)

皮膚腐食性・刺激性：OECD TG404 試験において刺激性なし：区分外

眼に対する重篤な刺激性：OECD TG405 試験において中等度の刺激性と評価され、1~3日目に認められた角膜混濁や光彩炎などの症状は7日以内にほぼ回復：区分 2A

生殖細胞変異原性：ラット及びマウスにおける優位致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告があるものの、極めて高用量での治験であり再現性も認められておらず、変異原性試験においても陰性であることが報告されている。）

発がん性：IARC では「アルコール性飲料」としてグループ 1 に分類しているが、これはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づいており、ヒトにおける嗜好的習慣的摂取のデータである。一方 ACGIH はエタノールを A3 に分類しているが、この評価に用いたデータは高用量で実施されており、より低用量での 2 年間の試験においては明確な発がん性は示されていない。

生殖毒性：一定量以上の飲酒による流産や胎児性アルコール症候群などのヒト胎児に対する悪影響が多数報告されている。ヒトに対するエタノールの生殖毒性のおそれ(区分 1A)

特定標的臓器・全身毒性（単回ばく露）：ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に急性中毒作用を及ぼし、大量摂取した場合には反射低下、呼吸または循環器不全などを及ぼし、場合によっては死に至る事がある。

麻酔作用（区分 3）気道刺激性（区分 3）

特定標的臓器・全身毒性（反復ばく露）：ヒトでアルコールの長期大量摂取によりほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的臓器は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る。
区分 1（肝臓）

アルコール中毒患者の禁断症状（振戦症状、てんかん、精神錯乱）区分2
（中枢神経系）

12. 環境影響情報

混合物としての情報なし

アルコール分 100%としての情報

水生環境急性有害性：甲殻類(ネコゼミジンコ)の 48 時間 LC50=5012mg/L、藻類(クロレラ)の 96 時間 EC50=1000mg/kg などから区分外とした。

水生環境慢性有害性：難水溶性でなく（水溶解度=1.00×106mg/L）、急性毒性が低いことから、区分外とした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物：廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。

都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。

廃棄物の処理を委託する場合、処理業者などに危険性、有害性を充分告知の上処理を委託すること。

汚染容器及び包装：容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処置を行なうこと。

空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意

国連番号 1987 ALCOHOLS、N.O.S.

国連分類 3

容器等級 II

消防法 第四類アルコール類

航空法 引火性液体（施行規則第 194 条危険物告示別表第 1）

船舶安全法 引火性液体類(危規則第 3 条危険物告示別表第 1)

海洋汚染等及び海上災害防止に関する法律 Z 類物質

緊急時応急措置指針番号 127

- その他
- ・取扱い及び保管上の注意の項の記載による他、消防法により第 1 類及び第 6 類との混載を禁止。
 - ・運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめて、転倒、落下、損傷のないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。
 - ・その他、適用法令の定めるところに従う。

15. 適用法令

- ・労働安全衛生法：施行令 別表第一危険物：引火性の物
特定化学物質／第 2 種有機溶剤等：非該当
通知対象物質

エタノール 73.3 wt%

2-プロパノール 2.8 wt%

表示対象物質

エタノール	65.3 wt%
2-プロパノール	2.8 wt%

- ・ 消防法：危険物第四類アルコール類（水溶性液体）
- ・ 危険物船舶運送及び貯蔵規則：引火性液体類 中引火点引火性液体

16. その他の情報

【参考文献】

JIS Z7253:2012 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法
JIS Z7252:2014 GHSに基づく化学品の分類方法
事業者向け GHS 分類ガイダンス（平成 25 年度改訂版(Ver.11)）
厚生労働省パンフレット「労働災害を防止する為リスクアセスメントを実施しましょう」
独立行政法人 製品評価技術基盤機構(NITE)
化学物質情報総合システム(CHRIP)
厚生労働省 職場の安全サイト
モデル MSDS

【注意】

- ・ この情報は新しい知見及び試験等により改正されることがあります。
- ・ 記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成しておりますが情報の正確さ、完全性を保証するものではありません。
- ・ 注意事項は通常取扱いを対象としたものですが、特別な取扱いをする場合には、新たに用途・用法に適した安全対策を講じた上で実施願います。
- ・ すべての化学品には未知の有害性がある得るため、取扱いには細心の注意が必要です。ご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようようお願い申し上げます。